



一年の計

一年の計は元旦にあり。
わたしの「今年一年の計」です。
これを目指してこの一年、この老いを生きた
いと念願いたします。
この一年は、「いのちの学校」。
この学校で、「いのち輝いて」生きること
を学びたいとおもいます。

「いのち輝いて」生きるには、まず第一に
「からだの健康」にきおつけなければなりません。
なぜかといえば、「からだ」はやはり
いのちの「うつつわ」であるからです。

健康でなければいのちは輝かないのかとい
うと、そうとばかりはいえません。からだ
が老いても病んでもいのち輝いて生きてい
る方も健康のほうですが、できれば病むよ
りも健康のほうが、老いても健やかなほう
いのちを前向きに喜んで生きることができ
るではありませんか。できることなら健康
がいい。

そのために、食べ物にきおつける事と、仕
事を探してでもする。それから歩行を日課
の中に組み入れる。

しかし、健康は目的ではありません。目的
はあくまで「輝いていきるいのち」を学ぶ
ことです。

どこで学ぶのか。

なるべく利害・損得・名誉・知識教養など、
人間的な灰汁(あじ)や手垢に汚染されていない
「サラサラのいのち」「あるがままのいのち」
の息づいているところがいいと思います。
華厳経というお経さまに次のようなことば
があるそうです。

「サラサラに乾いた高原の陸地には、蓮の
華は咲かないよ
じめじめ湿ったどぶ泥のなかからこそ 蓮
の華は清く咲きだすの」
誇れたり自慢したり見せびらかしたり教え
たりできるものはなにも無くなって、ただ手
元のにこっている何のちからもとりえもない
いのち。ただそれだけをだいに生きていらっ
しゃるおとしよりに尋ねてみたいと思います。

人や世間からは能力知力の劣ったものとみ
られるなかで、自分でさえ自信を無くしてし
まっている人たち。この仲間たちが「肩寄せ
あって」「思いやり」「温め合い」「励まし
合って」生きていくそのいのちの場面に、わ
たしは有無を言わずに学びたいと思います。

人のいのちは、本物の命と「共にある」こ
とによって輝くのではないのでしょうか。

青色青光、黄色黄光、赤色赤光、白色白光、
微妙香潔
阿弥陀経にお浄土の風景をこのように謳われ
ています。



平成15年度 勝林寺役員名簿

寺坂	山田博文	山田博文	山田洋子
日野辺	坂本剛志	坂本剛志	坂本道江
桐野	奥地桑男	奥地桑男	奥地和子
百合	谷原富雄	谷原富雄	谷原富佐恵
坪口	坂本智	坂本光隆	坂本さわ子
坪口	中嶋英樹		
榎見	木村和則	湯口裕	横山こはる
榎見	横山誠		
和屋	成田馨	成田馨	成田りく代
鉢山	成立幸夫	成立幸夫	成立ふみ子
暮坂	平野美好	平野美好	平野睦美
片間	南敬貴	南敬貴	南加寿子
丸中	立脇晃	立脇晃	立脇みさゑ
出石	亀井幸男	亀井幸男	亀井幸枝
出石	平野国政治	平野国政治	平野田鶴子
出石	古田敬治	古田敬治	古田多美江
佐田	石田隆雄	石田隆雄	石田文子
奥栗尾	田中輝幸	田中輝幸	田中ゆきゑ
口栗尾	岡野隆	岡野隆	岡野多鶴子
正法寺	教森昭	山田芳美	
正法寺	山田弘之		
口小谷	蔭山和子	宮嶋哲也	山田みゆき
口小谷	沢田春吉		宮嶋小好
奥小谷	澤田善男	澤田善男	谷垣なつこ
保谷	岸下一郎	岸下一郎	岸下ちよの
東里	森戸康雄	森戸康雄	長谷川美佐子
太田	坪木隆晴	坪木隆晴	坪木文子
唐川	渋谷重夫	渋谷重夫	渋谷貞子
出市場	生田善七	関川一男	清水尚子
日殿	永井淳一	大石正和	永井きよ乃
矢根	森井勉	森井勉	森井成子
矢根	永井五生	永井寛	永井昌子
野尻	永井均		
小田	衣川正之	衣川忠良	衣川はるの
小田	齋藤節夫	齋藤節夫	齋藤きく枝
小田	田村忠治	田村忠治	田村真知子

葬儀

平成一五年一月四日 栗尾
兼井 秀雄 様 八十四歳
平成一五年一月十六日 佐田
石田 巖 様 八十歳

平成十五年度

新役員名簿

一月二十五日の平成十五年度代議員会に
おいて、それぞれの地区から提出された新
役員を左表の通り承認しました。
左から「代議員」「仏教青年会理事」
「仏教婦人会評議員」の順に掲げました。
年度中いろいろとお世話になります、
何卒ご協力ください。

「勝林寺寺報」
は各地区代議員へ毎月一日に
お届けします。
なるべく早く急に地区内へ門徒
へ配布下さい。

二月のこよみ

- 一日 横山洋海氏宅法事
- 四日 岸下 豊氏宅法事
- 四日 神戸布教大会
- 八日 連研補講
- 九日 大月千鶴子氏宅法事
- 十一日 仏教青年会評議員会
- 十二日 第三ブロック布教使研修会(京都)
- 十五日 連研補修
- 十七日 朗読ボランティアあすなる編集
- 二十日 検診
- 二十一日 青年僧侶の会研修会(姫路)
- 二十三日 教区仏教連盟研修会
- 二十四日 教学委員会研修会
- 二十五日 あすなる録音
- 二十六日 教区連研のための研修会
- 二十六日 みのりを聞く会

勝林寺

テレホン法話を
聞きましょう

0796-52-5800

5800

毎月 一日・十日・二十日に変わります。



祈る



「祈らずとも神は護らん」
 どこで知ったのかひい爺さんはいつもこう
 言っておりました。
 「人間の祈りなんて、初めからしまいで、
 自分の損得勘定だけや。自分の欲からの薄汚
 い祈りなど、神や仏がなんで聞いてきくれよ
 うものぞ」

わたしは始めはひい爺さんの言うことに反
 発していましたが、大きくなるに従って、わ
 たしもそれほんとやなーと考えるようになり
 ました。

それというのは、世間に蔓延している祈り
 と言うものをみてみると、みんなみんな身勝
 手です。身勝手過ぎます。

人のことはどうでもいい。私だけが、わが
 子だけが、我が家だけが、我が国だけが幸せ
 で平和でありさえすればいい。とまーこの程
 度の祈りが一般的ですワ。

これは実は恐ろしいことです。
 なぜかと言うと、自分の家の、自分の国の
 幸せを願いながら同時に人の他国の事なんか
 かまっておれるまのか。いや時には人の幸せ
 を踏みにじってもかまわんというそんな悪魔
 の業を生みだしかねませんよねー。
 自分の国の国益を祈ることではいま現に世界
 は大混乱ではありませんか。

親が子供のしあわせを祈るのは、いかにも
 貴く美しいものに見えますが、親のそうした
 一方的な自分勝手な祈りの中で、肝心のこ
 もののちにひづみが生じていませんか。

してみると、本当の祈りというのは、皮肉
 ないいかたかも知れませんが、まず「祈りの
 空しさ浅ましき」を知ることではないかと思
 います。それが第一。

そこでひい爺さんの言ったことが、響いて
 参ります。
 「祈らずとも神や護らん」

蓮如さまというかたは
 雑行雑修自力のころを振り捨てて一心
 に弥陀に帰命すれば、不可思議の願力として
 仏のかたより往生は治定せしめたもう
 と申されます。

お勤めたんびにご文章上げるじやーありま
 せんか。

親鸞さまは

祈らずとも十劫のむかしからこのわた
 しめを祈ってくださる如来さまのお慈悲に
 はやくみんなで気づき喜ばせてもらおうな
 と、念仏申して祈りあわせましようとおうな
 くださった。
 これが終局の祈りとおもいますがいかがで
 しょうか。

ひい爺さんはほんとうにえらい人だったと思
 います。その三十三回忌の法事をこないだ勤
 めさせていただきました。



成人式を

迎えられた

あなたへ

成人式は、むかしなら元服。一人前の人間
 として扱ってもらえる「大人の世界」への旅
 立ちを記念する式です。

選挙権が与えられて政治的にも一人前の人
 格が認められます。法律の上からも責任と義
 務がおわされてまいります。経済的には自
 立するにはまだしばらくあるとしても、もう
 今までのように親のすねをかじってばかりも
 おられません。なにかにつけて「自立」し
 「一人あるき」せねばならない世界に一步を
 踏み入れたわけです。

前途洋々。ほんとうにおめでとうございま
 す。

ただここで、自立なさるあなたに、言わば
 「生涯の課題」として考えていただきたいこ
 とがあります。それは、「いのち」「生きる
 ということ」についての問題です。

いまあなたは青春の真っ只中にあります。
 かがやくばかりに美しいのちです。生きる
 力にも満ちています。おそらく今のあなたに
 は、夢と自信が有るばかりで、不安や危惧の
 かげさえささないでしょう。

だからこのときであればこそ考えていただ
 きたいのです。

「若さ・自信」というものの美しさ、「若い
 力」というものの素晴らしさ。と同時にその
 「はかなさ」を。

はかなさやおろかさを見ない自信や強さや
 賢さは、じつはもろく危険な生き方です。

自己の中に、どうしようもない醜さ・愚か
 さをみすえながら、もっとも美しく強くいき
 られたかたが親鸞さまと言う方です。

わたしのくらしのなかの、もろさ・醜さ・
 愚かさを抱えながら、それでもすばらしい
 のちを生き抜く道を指し示しているのが仏教
 です。

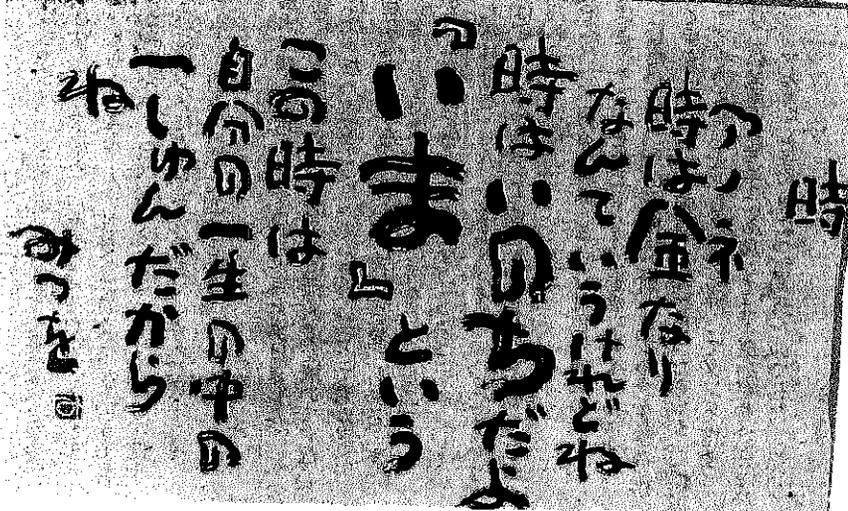
醜いわたしが、醜いまま輝かしく生きる道。
 はかない私が、はかない命のまま、永遠の
 いのちに生きかえる道。

親鸞様は、それを「生死いずべき道」とも
 「往生浄土の道」とも「帰命無量寿の道」
 (つぎることのないいのちに生き返る道)と
 も言っておられます。

今、あなたの輝いているのちは、しかし
 やがてうつろいゆくいのちです。
 うつろいことのない「無量寿」を、あなた
 も獲得してください。

今、第二の人生へ踏み出されたあなたに、
 次は「無量寿」に生き返る「第三の人生」目
 指して、聞き求めていただきたいと念ずるの
 です。

この小冊子「歎異抄」は、きょう旅立ちの
 あなたに、なにかを教えてくれるに違いあり
 ません。それを願ってお祝いのしるしとして
 贈ります。



「はこべの家作業所」のなかまから
 こんな年賀状をもらいました。
 相田みつをさんの詩です。